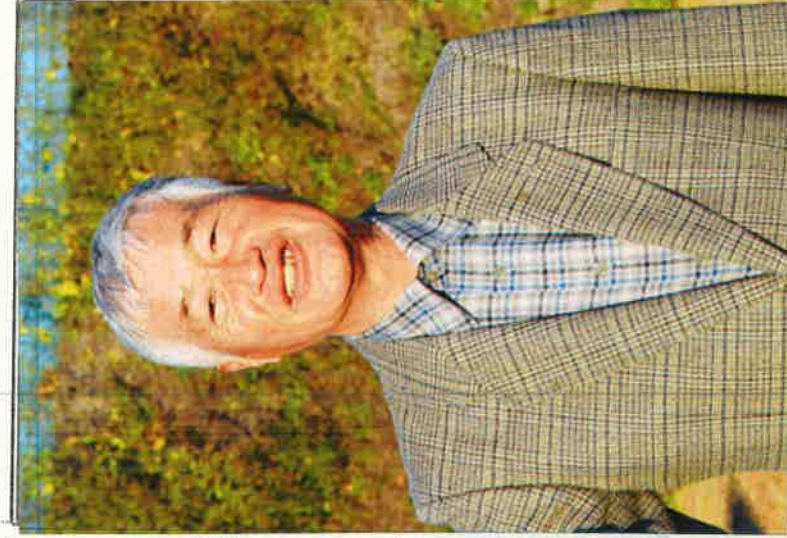


おはよう愛宕山

☆ 発行所 ☆
おはよう愛宕山新聞社
〒741-0071 愛宕山新聞社
岩国市牛野谷町3-75-19
郵便振替 01510-0-19089
おはよう愛宕山新聞社

あけまして
おめでとう
ご賀います

平和憲法を守るために、 その先頭で頑張ります。 二〇一七年正月 岩国市議 田村順玄



昨年9月、集団的自衛権の行使を認めた安全保障関連法が強行可決された。この法律の成立で日本の自衛隊は集団的自衛権の行使が可能となり、憲法9条に違反する戦争行為が行われる恐れが強まった。
米軍基地のある岩国市民

は、こうした中で戦争やテロに対する不安や恐怖を抱かされるなど平和的生存権を侵害される。こうした国の行為である新安保法制は違憲だと、全国で訴えが起きされた。山口県でも12月26日、16人の市民が原告となり国に一人10万円の損害

賠償を求める訴えを起し、私もこの裁判の原告として参加した。
戦後70年目の今まで、戦後を日本は戦争をしない国として平和を貫くことが出来た。それが勿論、今の憲法があったから。その憲法が今年歳に、昨年9月19日強行採決された新安保法制がその元凶だ。
この憲法の
下で、日本は
集団的自衛権
の行使はしな
いという原則
を堅持してい
たが、それを
閣議決定だけ
で覆してしま

二〇一七年、「おはよう愛宕山」の発行予定です。今年もよろしく。

(状況により発行日を変更させていただくことがあります)		
1月1日：五二九号	5月7日：五三七号	9月3日：五四五号
1月15日：五三〇号	5月21日：五三八号	9月17日：五四六号
2月5日：五三一号	6月4日：五三九号	10月1日：五四七号
2月19日：五三二号	6月18日：五四〇号	10月15日：五四八号
3月5日：五三三号	7月2日：五四一号	11月5日：五四九号
3月19日：五三四号	7月16日：五四二号	11月19日：五五〇号
4月2日：五三五号	8月6日：五四三号	12月3日：五五一号
4月16日：五三六号	8月20日：五四四号	12月17日：五五二号

こうした国の動きを後押しするように、岩国市は「基地との共存」という街づくりもコンセプトに市政の推進を図っている。何むか、防衛省との二人三脚だ。
街を走る車両には防衛省のステッカーが付き、基地や愛宕山の工事現場へ出入りが目立つ。今進行する市の大型事業も殆ど、防衛省の補助を受けているメニューが並ぶ異様な状態だ。
さらにF35Bや艦載機の受入れを条件に、黒炭の国病跡地整備や南道路の南伸も防衛省の支援助で推進したいと、年末には稲田防衛大臣に要請したと言う。
こうした「アメ」の啗結が大きな災いとなって、後にこの街に帰ってくることを意識しておきたい。
10年前の3月12日、岩国市民は全国が注目する艦載機



錦帯橋河原での1万人集会(2007.12.1)

機移駐の是非を問う住民投票で大多数の市民が「移駐NO!」を突きつけた。
そして翌年12月1日には錦帯橋河原で、一万人の大集会を成功させた。この時の気持を原点に、2017年ももう一度奮起の年にした
いと念じている。

た
じ
ら
ひ
ら
け
る
お
は
よ
う
愛
宕
山
2017年最初の「おはよう愛宕山」をお届けする。この新聞も95年1月の創刊だから、満22年の歩みを刻んだことになる。本当によく続いたものだ、我ながら感心する。そして一重に皆様の愛護があったからだと感謝している。▼同時にこの新聞を相伴に、筆者は議員としての仕事を同じ月日週ごしてきた。振り返ると現在、議会に同期以上はちかくなった。今は最古参という役回りで、責任は重大だ。▼今年の干支は「酉」、私も60年目の酉年を迎えた。60年前の小学生時代、通徳館に先生からいつも捲ちつもの無いふと書き込まれていた。トリの様にバタバタした子供だったのだから。道理でこの新聞を発行するサイクルも、いつも追いつけられぬ慌だしい毎日を送っている。▼今年度は「F35B」配備から始まり、艦載機移駐もあるだろう。人口減少や高齢化対策など、市政の課題も山積している。頑張らねばと決意して、新年のご挨拶と致す

西側工区は米軍住宅が着々と。 東側工区は未だ利用方法も示されず 運動施設の工事が進んでいる。



愛宕山西工区で進む米軍住宅建設工事



米軍専用橋の向こうに広がる建設現場



観客席が出来つつある陸上競技場



緑をばぎ取られた「法面保全工事」



ほとんど完成した野球場

愛宕山の今を写真探訪



「愛宕山に米軍住宅はいりません！」今日も牛野谷周辺に黄色の旗がはためいている。初めて黄色の旗を立てたのが2018年11月、旗は1年たてば色あせ毎年新調して8年、この風景はすっかり定着した。

愛宕山では「見守りの集い」という座り込みも2010年8月から始まり、月3回の集まりにこれまで述べて1万人を超える人が参加している。

こうした住民の思いも踏みにじり、愛宕山へは米軍住宅の建設が本格化している。市民の使用も可能というふれこみで、野球場などの運動施設も工事が急ピッチで進行している。しかしその利用方法は全く示されず、市民は愛宕山が今どうなっているのか疑問ばかりだ。

医療センターの窓などから見える建設の状況を、カメラスケッチとして何枚かお知らせする。西地区で進む米軍住宅はほとんど見ることが出来ず、これがやっとな見えた情景だ。

防衛省の説明会では、「周辺緑地は全く施設は作らず自然保護に努める。」と公言していたのに、そこはほとんど「のり枠工」と呼ぶコンクリートで固められた。

米軍敷地への侵入を防ぐ「テロ対策」が目的のようだ。

